学術書籍・論文を読む（１）
書籍・論文の構成を中心に

注意点

・対象の書籍・論文は各自の期末レポートの方向で考えること。ただし最低 10 ページ以上のもので、「学術的」だと認められるものを選んでください。その最低条件は情報の出典が挙げられていること（原則として脚注または文末注が付いているもの）と新しい研究結果が含められていること。原則として生きている（または最近亡くなった）学者（大学教員など）の論文を選んでください。（最近の「査読付き」の学術誌に載っている論文は大体この条件を満たしていると考えて良い。）言語は日本語でも外国語でも構わない。

読む時の注意点

・書籍または論文の編成（目次、abstract、序文、章立て、結論、脚注、文献目録、索引、資料編等）に注意する。章立てなどが特に明記されていない短い論文の場合には内容から編成を読み取ること。

・書籍または論文の主要な内容（著者の研究によって得られた成果または議論）が論文のどの部分にどのように表出されているか。または、それがそれ以外の内容とどのように区別されているか。

・言語（表現様式）

・一次資料の扱い方

・書式、フォント、図式や画像の見た目などにも注意しよう！